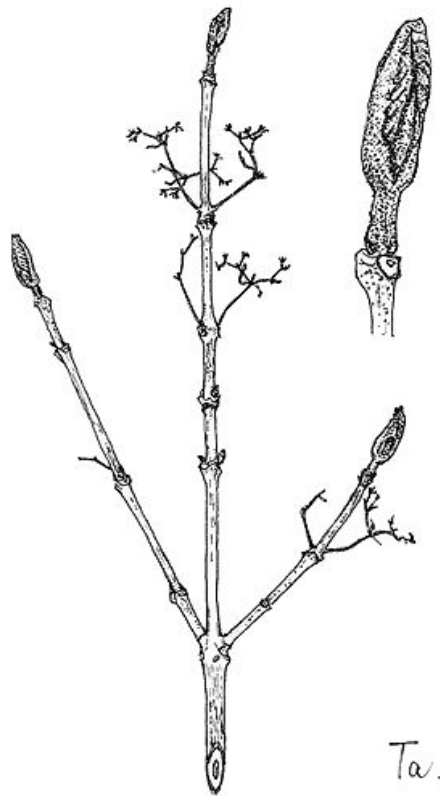


稲城野草散策の会

野草スケッチ ムラサキシキブ（クマツヅラ科）



ムラサキシキブの冬芽 絵と文 Ta

ムラサキシキブの名は、かの才媛、紫式部の名を借りて美しい実をたたえた、という語源説が有力だ。

この説は牧野富太郎が唱え、多くの図鑑でも引用されている。

では、紫式部が世に出る前は何と呼ばれていたのだろうか。

ムラサキシキブと呼ばれるようになったのはいつごろからなのだろうか。

残念ながら、万葉集にはムラサキシキブと思われる花や実を詠みこんだ歌はないのだそうである。

語源はともかく、あの実を見てムラサキシキブという名を教われれば、だれでも納得してしまうのではないだろうか。

他の名前があったとしても、広く通用するようにはなりそうもない。

ムラサキシキブは材が硬いことを利用して、細工物などに使われたらしく、箆の材料になったことから、八丈島では「ハシギ」と呼ぶそうである。

「ハシギ」は「ムラサキシキブ」より古い時代から使われているから、これを標準和名にしよう、という運動を起こしても、それこそ箆にも棒にもかからないだろう。

ムラサキシキブは雑木林に生える低木である。

少しくらい日当たりが悪くても、めげたりはしないが、やはり実の付きは悪くなる。

花か実があれば、ムラサキシキブの識別は容易だ。

雑木林の中に花や実が紫色になる低木は他にはない。

実がなくても、白っぽい樹皮や葉の形で見当がつく。

葉が落ちたあとなら、対生の枝と白っぽい樹皮で見当をつけ、細かい毛に覆われた冬芽で確認すればよい。

樹木を見るとき、「互生／対生」は重要な要素だ。

たとえばサワシバとチドリノキは葉だけを見るとそっくりだが、互生と対生の違いがあるので、その点に着目すれば見誤ることはない。

フウという中国原産の樹木があり、街路樹にも用いられる。中国名は「楓」という。

これが日本へ持ち込まれたとき、葉の形の類似から、カエデに「楓」の字をあててしまったというエピソードがある。

これも、フウは互生、カエデ類は必ず対生なので、そのことを知っていれば、悲劇？は起こらなかった。

ムラサキシキブとよく似たものに同属のヤブムラサキがある。

さきほど述べたムラサキシキブの識別ポイントは、じつはヤブムラサキにも当てはまる。

違いとして教わるのは、ヤブムラサキの葉には毛が密生していて、ビロードのよ

うな感触がある点だ。

ムラサキシキブには毛がなくて、冷ややかな感じがする。冷静な才女なのか(^_^)そこへいくとヤブムラサキは田舎娘とでもいおうか、素朴なぬくもりが伝わってくる。

樹木を覚えたての頃は田舎娘、じゃなかった、葉を触りまくったものである。いまでも観察会で見ていると、触って違いを確かめている人が多い。

「触らずに、1～2m離れた状態で、両者を見分ける方法を確立せよ」
初級を脱して中級へ写る頃、自分にそういう命題を与えた。
図鑑を見るといろいろ書いてあるが、図鑑の文章は必要事項を圧縮・要約してあり、こちらの理解度の問題もあるのだが、なかなか頭に入りにくい。
実物を見て、図鑑を読み直すことを繰り返してようやく判ったのは、ムラサキシキブは花も実も上向きで、葉よりも上に出ている点だ。
やはり誇り高き才媛なのである。
ヤブムラサキは下向きに、葉の裏へ隠れるように咲いている。引っ込み思案の田舎娘の習性がここにも現れた？
この点がわかれば、冬枯れの姿であっても、実の残骸が残っていれば見分けがつく。
この他にも、ヤブムラサキは実を覆っているガク片が大きく、しかも毛が密生しているので果柄が太く見える、などのポイントも重要だ。

毛の有無やガク片の形、冬芽の芽鱗など、手で触れたりルーペで確認しないと判別できないものは多い。

もちろんそういったポイントを知っていることは基礎として重要なのだが、離れていても分かり合える(?)ことができれば、観察もずっと楽しくなるに違いない。

現在、冬芽図鑑を作成中(完成時期未定)なのだが、冬芽を見なくても見当をつけられる特徴点を模索している。

自分ではパッと見て判ることでも、文章や言葉で伝えることは難しい。

「大きめ、小さめ」「太め、細め」など、無理に文章にしても他の人には判定困難だ。

なぜ自分には判るのか、その辺の分析ができていないことになるわけであるが・・・
どなたかのお知恵を拝借できないものであろうか。

紫式部の才能の片鱗でも貰いたいものである。 * * * * *

〔行事記録〕 12月16日 穴沢天神・焼き芋大会

焼き芋大会は、観察組と準備組に分かれます。観察組に参加された満井さんから観察記録が出ています。ご参考まで。

▲観察記録（満井喬）

科名	和名	科名	和名	科名	和名
ヤナギ科	ボブラ	バラ科	イヌザクラ	モクセイ科	ネズミモチ
ヤナギ科	カロリナボブラ	バラ科	ウワミズザクラ	モクセイ科	トウネズミモチ
ヤナギ科	シバヤナギ	マメ科	ノササゲ	モクセイ科	レンギョウ
フナ科	コナラ	マメ科	ヤマハギ	キョウチクトウ科	テイカカズラ
フナ科	クヌギ	トウダイクサ科	アカメガシワ	アカネ科	ヘクソカズラ
フナ科	アラカシ	ユズリハ科	ユズリハ	シソ科	ヒメオドリコソウ
フナ科	マテバシイ	ミカン科	カラタチ	ノウゼンカズラ科	キリ
カバノキ科	アカシデ	ウルシ科	ヌルデ	スイカズラ科	サンゴジュ
カバノキ科	オオハヤシバシ	ニシキギ科	ツルウメモドキ	スイカズラ科	スイカズラ
クワ科	カナムグラ	ニシキギ科	マユミ	スイカズラ科	ハナノソクハネウツギ
クワ科	ヤマクワ	モチノキ科	アオハダ	スイカズラ科	ハコネウツギ
ニレ科	エノキ	グミ科	ツルグミ	キク科	キッコウハグマ
ニレ科	ケヤキ	キフシ科	キフシ	キク科	ブタナ
ニレ科	ムクノキ	イイギリ科	イイギリ	キク科	コウゾリナ
ナデシコ科	ウシハコバ	ウリ科	カラスウリ	キク科	コセンダングサ
ヤマゴボウ科	ヨウシュヤマゴボウ	アカハナ科	メマツヨイグサ	キク科	ヒメジョオン
キンボウク科	センニンソウ	セリ科	ヤブシラミ	キク科	オオブタクサ
ツツラフジ科	アオツツラフジ	ウコギ科	キツタ	ユリ科	サルトリイバラ
アケビ科	ミツバアケビ	ミスキ科	アオキ	イチョウ科	イチョウ
ツバキ科	サザンカ	ミスキ科	ミスキ	イノモトソウ科	イノモトソウ
ツバキ科	チャノキ	ミスキ科	クマノミスキ	オシダ科	ヘニシダ
ツバキ科	ヒサカキ	ツツジ科	ナツハゼ	オシダ科	クマワラビ
バラ科	カマツカ	ヤブコウジ科	ヤブコウジ	オシダ科	ヤマイタチシダ
バラ科	モミジイチゴ	エゴノキ科	エゴノキ	ヒメシダ科	ミソシダ
バラ科	ニガイチゴ	ハイノキ科	サワフタギ		

皆さん今晚は。

内山会長はじめ、準備してくださったお姉様方ありがとうございました。毎年都内でこんな大きな焚き火ができることが感動です。

煙でスモークされ燻製状態になって家に帰りました。（田沢信夫）

焚き火の写真、芋を焼いているところの写真があるのですが、うまくコピー出来ないのので割愛させていただきます。（FAM）

田沢さん、ZAPさん、焚き火の管理、ご苦労様でした。

火遊びは楽しいものですが、それが3時間、4時間となると、体力がなければ、とても続けられません。

恒例の焼き芋大会も、お二人の活躍がなければ続けられないように思います。いっそのこと、お二人に消防夫の装束をプレゼントしては如何？ま、それも怪しいか。

余計なお世話なんですけど、某防災用品メーカーのサイトで耐火服一式の値段を調べたら、ざっと48000円でした。思いの外、安いですね。これにはゴーグルやマスクが含まれていませんでしたので、それを併せると5万円ちょっとになるんでしょう。

これを高い出費か安い出費かと判断するのは難しいですが、来年の焼き芋大会でお二人が銀色の装束で奮闘する姿をちょっと見てみたい気がします。(とーはもん)

〔フローラオフ〕12月23日 稲城・シダ谷

家を出るときは小雨でしたが、ランドのゴンドラを降りて歩き始める頃には雨も上がり、しばらくすると青空が見えてきてすっかり快晴になりました。雨ということで参加されなかった皆さん残念でした。

田中先生の本日のテーマは「ヤブソテツ」。テリハヤブソテツ、ヤマヤブソテツ、ナガバヤブソテツと出てきましたが、それぞれ何種類かタイプがあるそうで、それらを見分けるには経験が必要だと思いました。

妙法寺では、大勢の人が忙しく仕事をしていました。訊ねるとここで映画「げげの鬼太郎」の撮影を行うのだそうです。妖怪に扮装した人も来ていました。

妙法寺に以前からある斑入りのハカタシダは、新しい場所に移動して健在でした。別な場所には園芸のホコシダが植えられていました。シダ谷に向かう途中の曲がり角にあったギフベニシダの場所は道路が拡幅されて削られて消滅していました。残念。

シダ谷では、お目当てのイノデの仲間6種やオシダが確認されました。昨年見たという珍しいシダも確認、お渡しした資料に載っていなかったシダも見つかりました。今日はT aさん手作りの24倍ルーペがソーラスやハナワラビの孢子嚢などの観察に活躍しました。

来年度は開発工事のためシダ谷での観察会が出来ないかもしれないというのは残念なことです。いろいろ教えていただいた田中先生ありがとうございました。

(FAM)

〔行事予定〕 2008/1/19 (土) 黒川・七草摘み

項目	説明
集合	am10時、小田急多摩線・黒川駅南口階段下 ※会旗目標 改札口は一個所だけです
交通	小田急線・新百合ヶ丘駅より唐木田行きに乗換えて3駅目 京王相模原線・永山駅で小田急多摩線に乗換え2駅目です 京王線利用者は、京王相模原線・若葉台駅から徒歩(10分弱)が 便利
行く先 (解散場所)	黒川の谷戸で七草摘みをします。黒川駅にてpm3時頃解散予定
見所 その他	七草粥用のセリ、ナズナ、オギョウ(ハハコグサ)、ハコベラ(ハ コベ)、ホトケノザ(コオニタビラコ)などを摘みます。 摘んだ七草は翌日の七草粥用です。個人的に持ち帰ったりしないで ください
地図	
コース	黒川駅→汁守神社→(黒川の谷戸で七草摘み&昼食)→汁守神社→ 黒川駅(解散・・・15時ころ) (上の地図を参照ください) コースは天候その他により変更する場合があります

※小雨決行 参加申込み不要、会費当日300円。

〔行事予定〕 2008/1/20 (日) 恒例・七草粥

項目	説明
集合	am10時、京王相模原線稲城駅 ※会旗目標
交通	京王線調布駅から相模原線橋本行快速または各停で4駅目 多摩モノレールの場合は多摩センター駅で京王線に乗換えて 3駅目 小田急線の場合は、永山駅、または多摩センター駅で京王線に 乗換え 稲城駅には急行は停まりませんのでご注意ください
行く先 (解散場所)	稲城市城山文化センター(向陽台)での恒例・七草粥です 現地で解散。最寄駅は稲城駅です
見所 その他	当会の新年会を兼ねて七草粥を作り、皆で頂きます 2008年度の「稲城野草散策の会」の行事予定を決めます お汁粉、つまみ、お茶・ジュースなどの飲み物は幹事が用意します 差し入れ大歓迎!! 新年会での飲酒は最近の傾向から自粛することにして居ります

※雨天決行 参加申込み不要、会費当日500円



〔募集・2008年度観察会の推薦場所〕

2008年度の観察希望の場所を募集します。皆様からのご提案をお待ちします。
月例の場所としては、12月の焼き芋大会、1月の七草摘み、七草粥。稲城ふれ
あいの森、三沢川下りなど稲城での観察会を6回くらい、その他の場所8回。
バスハイク観察会1回を目安に考えています。

◆過去のバスハイク観察会は、下記。(FAM)

- 000806 (日) 乙女峠
- 010729 (日) 三ツ峠
- 020627 (日) 三窪高原
- 030724 (木) 高峰高原
- 040722 (木) 入笠山
- 050714 (木) 高ボッチ
- 060427 (木) 函南原生林
- 070720 (金) 霧ヶ峰高原

〔行事予定〕 2008/2/17 (日) 長沼公園

項目	説明
集合	am10時、京王線長沼駅・改札口付近 ※会旗目標 長沼駅の改札口は一個所だけです
交通	京王線京王八王子行きまたは高尾山口行きをご利用下さい 長沼駅には、急行、準特急、特急は停まりません。快速、各駅停車 をご利用下さい 急行、準特急、特急をご利用のときは、高幡不動でお乗り換え下さい
行く先 (解散場所)	長沼公園内観察、pm4時頃解散予定
見所 その他	冬芽の観察
地図	 <p>The map shows the location of Nagano Park (長沼公園) in green, outlined in red. It is situated south of the Keio Line (京王線) and Nagano Station (長沼町). Other landmarks include Nagano Elementary School (小長沼小), ENEOS, and the Nagano Water Treatment Plant (網ヶ丘給水所). The route for the event is indicated by a red line starting from Nagano Station, going to the park entrance, following the misty path (霧降の道) to the top garden (頂上園地), then to the Wild Monkey Hike (野猿峠ハイキング) course, through the well (井戸たわ尾根), the wood (木の), and the Aschichuck (アスレチック) area, passing the Imperial Palace (殿ガ谷戸) and the Six Societies (六社宮), before returning to Nagano Station for dispersal at approximately 4 PM.</p>
コース	長沼駅→長沼公園入り口→霧降の道→頂上園地→野猿峠ハイキング コース→井戸たわ尾根→木のアスレチック→(殿ガ谷戸)→六社宮 →長沼駅 (解散：pm4時頃)

※小雨決行 参加申込み不要、会費当日300円